
厚木看護専門学校

2018年度 自己点検・自己評価 学校関係者評価 報告書

2019年4月

社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団

厚木看護専門学校

1. 2018年度自己点検・自己評価について

1) 2017年度評価に対する2018年度の取り組み総括

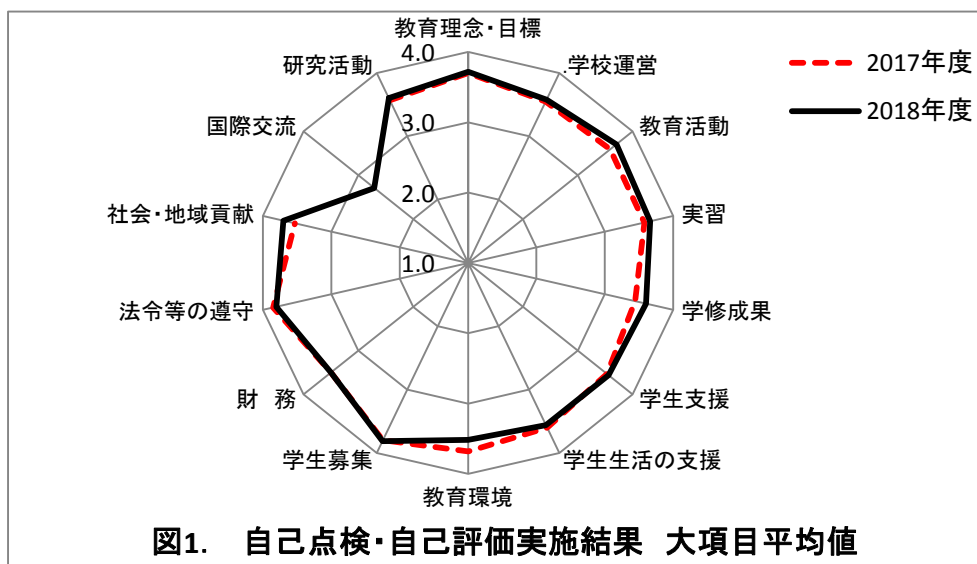
2017年度の評価において4.「学修成果」の④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか、⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているかの評価が3.2 3.0と低かった。更に講師会議での意見から2018年度は以下の4点を重点課題とし取り組んだ。

- (1) 学修成果：卒業生の社会的活躍を把握するため、8施設の就職先の病院を訪問し、看護部からの聞き取り調査を実施した。調査結果から①主体的に学ぶ力の強化、②情報収集能力と得た情報からの推論力の強化、③対象や状況に合わせたコミュニケーション能力の強化、④メタ認知の強化の4つの課題が明確になり、職員会議・科会議で共有した。
- (2) 教育活動：教育内容の体系的な編成に向けて、講師会議・教育課程編成委員会等での意見を参考にしながら、領域別の教育課程のプレゼンテーションによる検討や、カリキュラム改正に向けた学習会を実施し、カリキュラム改正に対応できるよう準備を進めている。しかし、自己点検・自己評価には十分に反映されていないため検討が必要である。
- (3) 教育環境：教材・備品の確認を行い、必要教材の購入検討を行った。また図書室の蔵書確認を行い、領域別に購入図書を検討し、教育環境を整えている。また、災害用品の確保・学生への配布など行い安全管理・災害時への準備を強化した。
- (4) 学生の受け入れ募集・財務：ホームページをリニューアルし、入学を検討している方々にとっても学校生活がイメージしやすいように改善を図った。また、学生確保に向けて教職員ひとり一人が学生募集活動・教育成果に努め、2019年度入学生は定員を確保することができた。

2) 2018年度自己点検・自己評価の実施・結果

- (1) 実施日：2019年1月4日～2019年1月10日
- (2) 対象者：全教職員32名 回収率100%
- (3) 評価項目：大項目はレーダーチャート(図1)に示す。
- (4) 評価基準：「不適切…1、やや不適切…2、ほぼ適切…3、適切…4」の4段階とした。
- (5) 結果・課題：2018年度自己点検・自己評価の結果は、全体平均3.6であった。

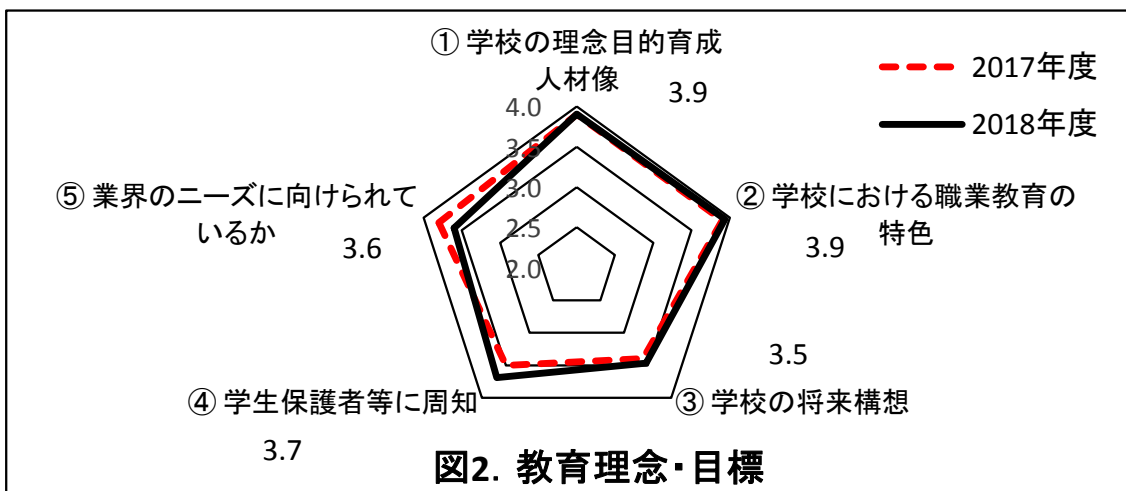
2018年度の結果3.5以下は「教育環境」・「財務」の3.5と「国際交流」の2.7の3項目であり、2019年度の重点課題とし取り組んでいく必要がある。



細項目の結果は以下の通りである。

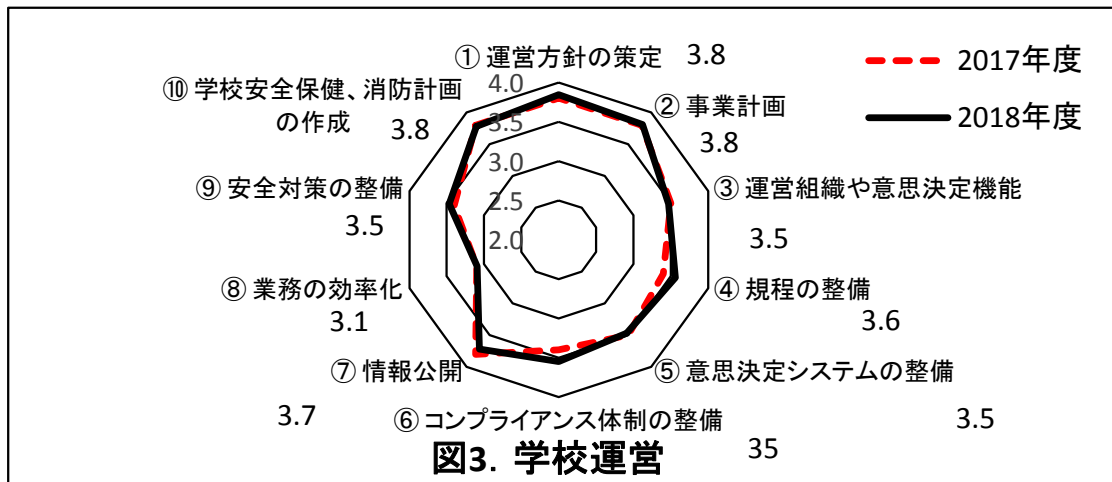
1 教育理念・目標

全体的には昨年度と同様に高い評価を維持している。3.5以下の項目は、③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているかの1項目である。看護第二学科は、2019年度入学生より募集停止となった。看護基礎教育の4年制が推奨される中、学校の将来構想についての関心の高まりが結果に反映されたと考える。卒業生の社会的活躍を把握するため、8施設の就職先の病院を訪問し、看護部からの聞き取り調査を実施した。調査結果から1) 主体的に学ぶ力の強化、2) 情報収集能力と得た情報からの推論力の強化、3) 対象や状況に合わせたコミュニケーション能力の強化、4) メタ認知の強化の4つの課題が明確になり、⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているかの結果に影響した。



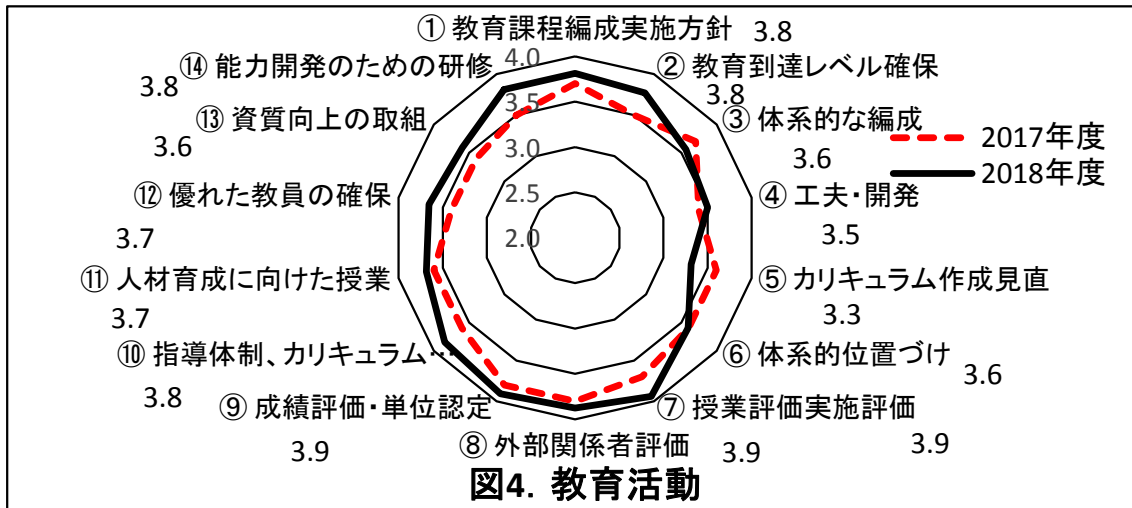
2 学校運営

全体的には昨年度と同様の評価を維持している。しかし、③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか、④人事、給与に関する規程等は整備されているか、⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか、⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか、⑨学生及び文書、備品等を守るための安全対策の整備はなされているかの項目で、1または2の評価がそれぞれ見られた。



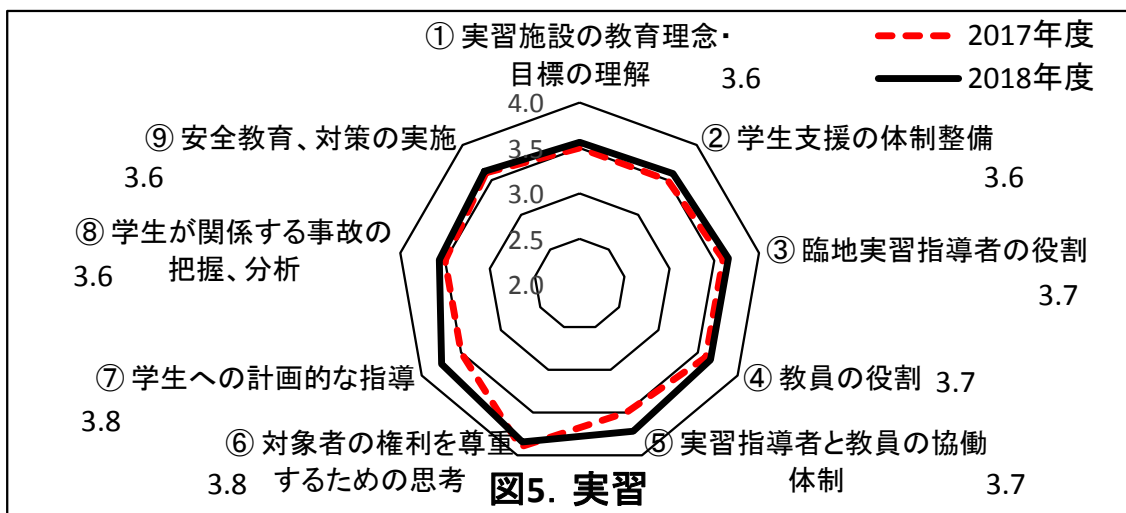
3-1 教育活動

全体的に昨年度と同様の評価を維持している。3.5以下の項目は、④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方針の工夫・開発などが実施されているか、⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているかの2項目である。教育内容の体系的な編成に関しては、教育課程編成委員会、講師会議等での意見を参考にしながら、領域毎に教育課程のプレゼンテーション実施や学習会を実施し、カリキュラム改正に対応できるよう準備を進めている。



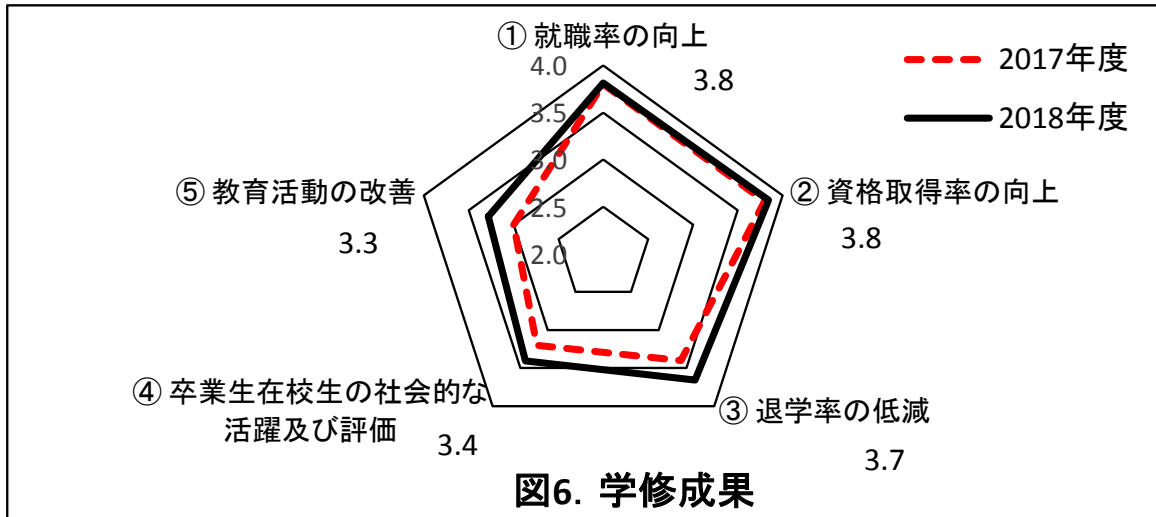
3-2 実習

全体的には昨年と同様の評価を維持している。臨地実習指導者と教員の協働体制も整い実習環境が整っていると考えるが、教員の経験年数により差が生じている部分もあるため、パートナーシップの充実を図り、統一した指導ができるようにしていくことが課題となる。



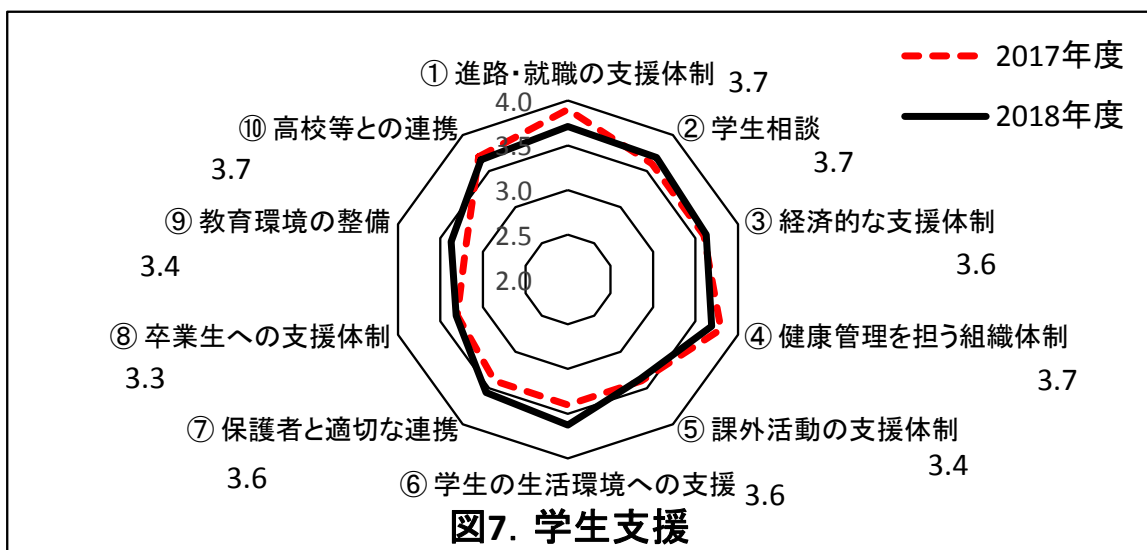
4 学修成果

全体的に昨年度と同様の評価を維持している。今年度より卒業生の就職病院の訪問を開始したことで、学修成果の課題が明確になり職員会議にて共有をした。3.5以下の項目は、④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか、⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているかの2項目であったが、昨年度より上昇している。



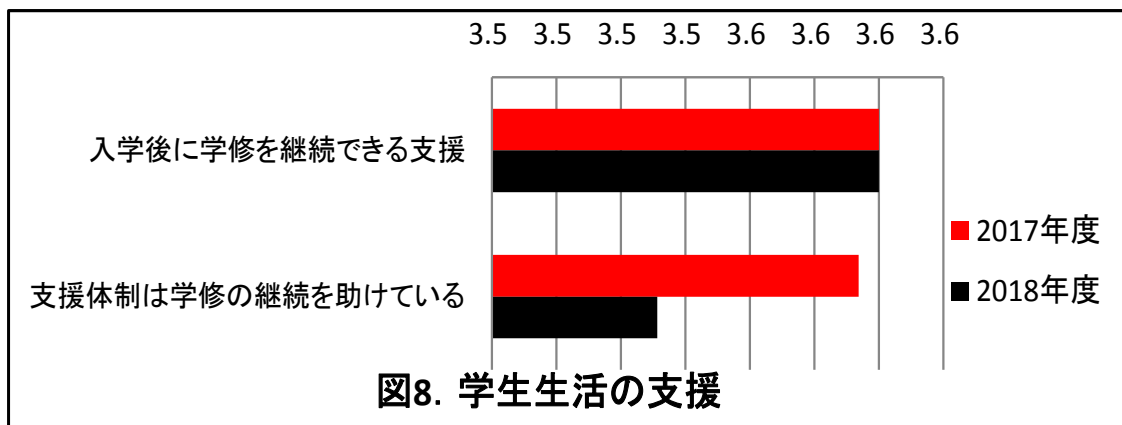
5-1 学生支援

チューター制度を導入しスクールカウンセラーの活用頻度も増加している。この結果が②学生相談に関する体制は整備されているか、⑥学生の生活環境への支援は行われているかの結果として反映された。また、保護者説明会に各学年担当教員が参画する体制を導入した結果が、⑦保護者と適切に連携しているかの評価に反映された。①進路・就職に関する支援体制は整備されているかについては、0.2ポイント評価が下がり、就職状況が厳しい傾向もみられる中、より個別的な支援体制の強化とタイムリーな情報提供を行っていくことが課題である。



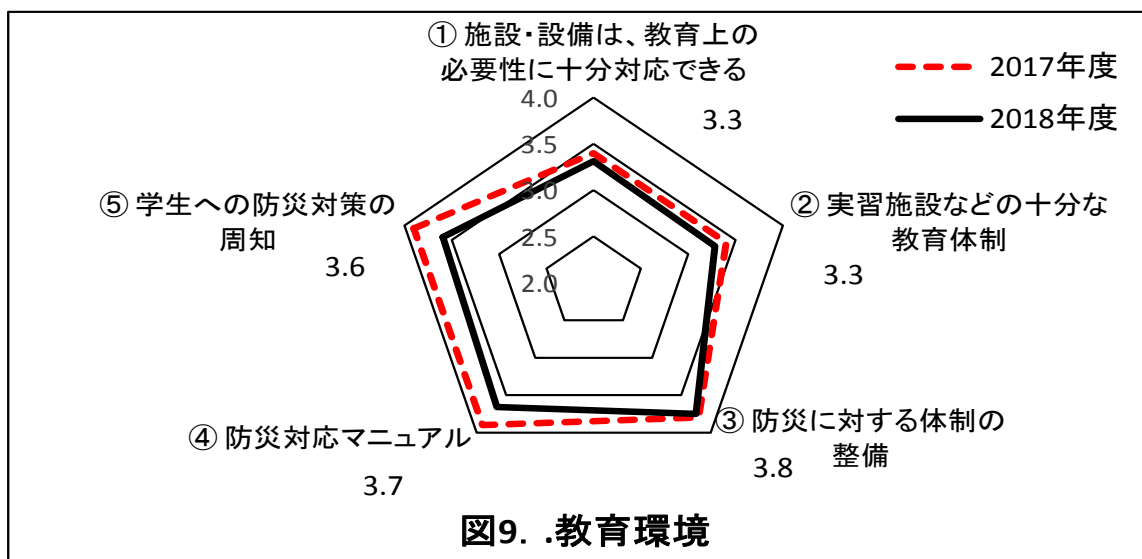
5-2 学生生活の支援

全体的に昨年度と同様の評価を維持している。今年度より学校関係者評価委員会「明日の厚木看護専門学校を考える会」に学生が委員として加わった。①授業評価項目にある「予習をして授業に臨んでいる」という評価が低い点について、②体調不良の際などに学校へ連絡した時の教員の対応について、③学校からの一斉連絡手段としての安心でんしよぼとのメールシステムについて、以上の3点について委員より質問があり討議した。委員会終了後より改善に取り組んでいる。



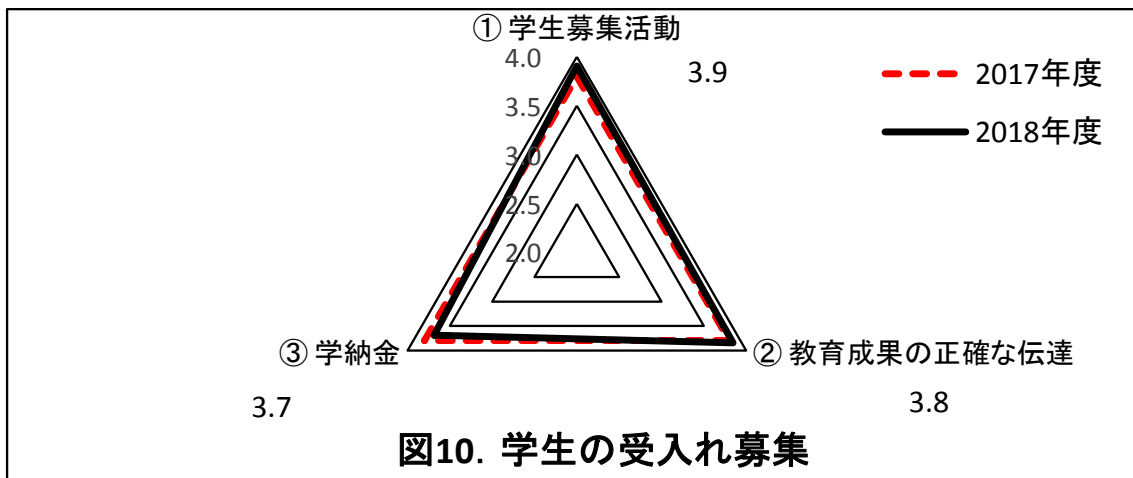
6 教育環境

全体的に昨年度と同様の評価を維持している。3.5未満の項目は、①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているかの2項目である。備品の更新が十分に実施できていないことや海外研修に関する教育体制の整備がないことが結果に反映された。学校安全会議の発足により防災用品の確保、学生への配布などを行い安全管理・災害時の準備強化に取り組んだ。④防災対応マニュアルの作成と適切な対応がなされているか、⑤防災訓練等による学生への防災対策の周知はなされているのかについては、昨年度より評価が低くなった。これは、実習中や様々な災害に対し対応できる内容であるのか、問題意識がより高まったことが影響していると考えられる。



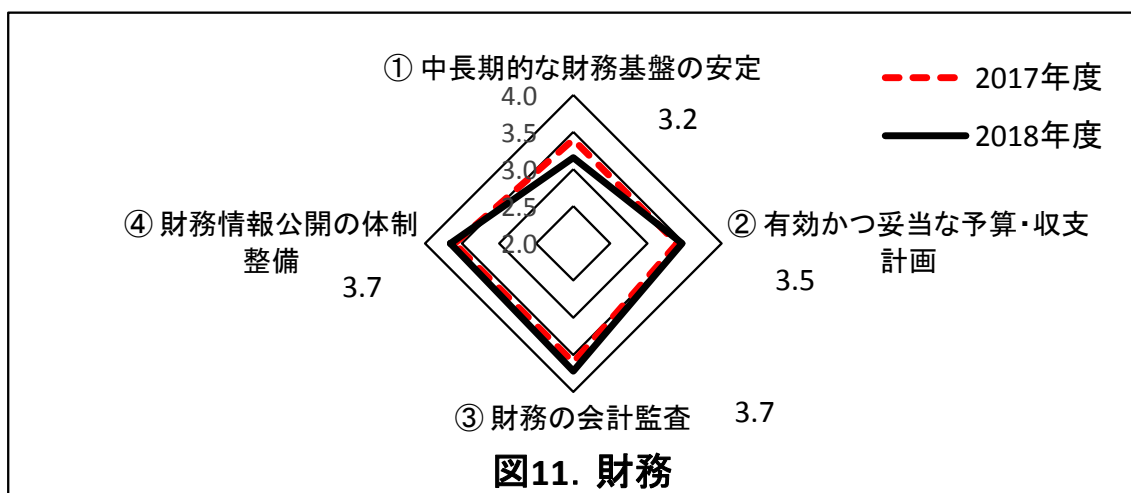
7 学生の受け入れ募集

全体的に昨年度と同様の評価を維持している。今年度ホームページのリニューアルを行い、より学生生活がイメージしやすい内容になったことが、①学生募集活動は、適正に行われているかの評価に反映されていると考える。



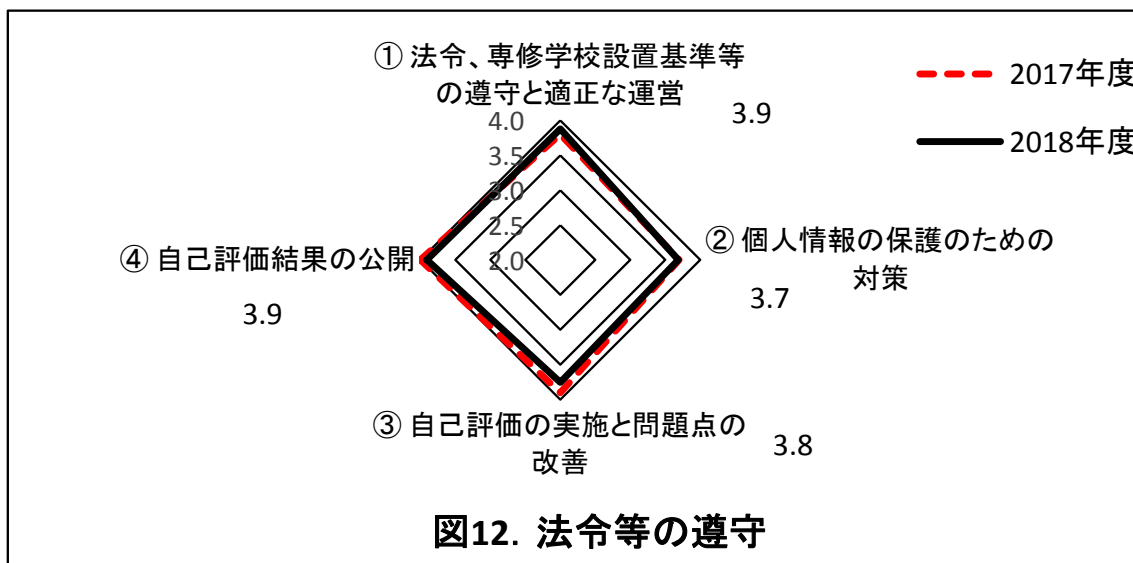
8 財務

全体的に昨年度と同様の評価を維持している。実習謝礼の適切な単価設定と財源確保に向けて授業料の値上げを行ったことが評価に反映されたと考える。しかし、①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるかは昨年度より0.2ポイント評価が下がっている。これは授業料の値上げの影響が結果に反映された。情報公開については、看護学校拠点での財務状況の情報公開を行っている。



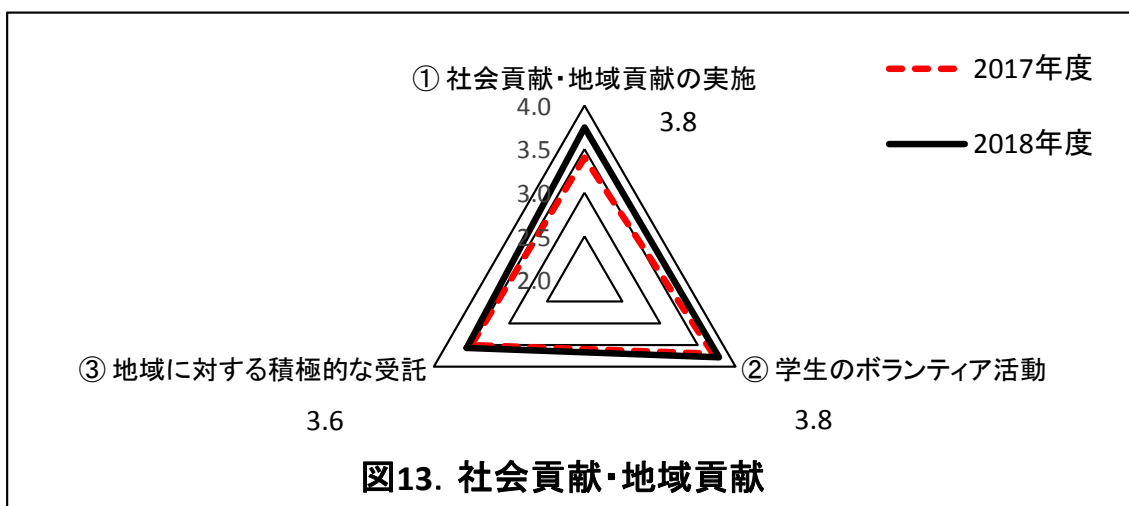
9 法令等の遵守

全体的には昨年度と同様の高い評価を維持している。法的根拠に基づき学校の運営は行われている。



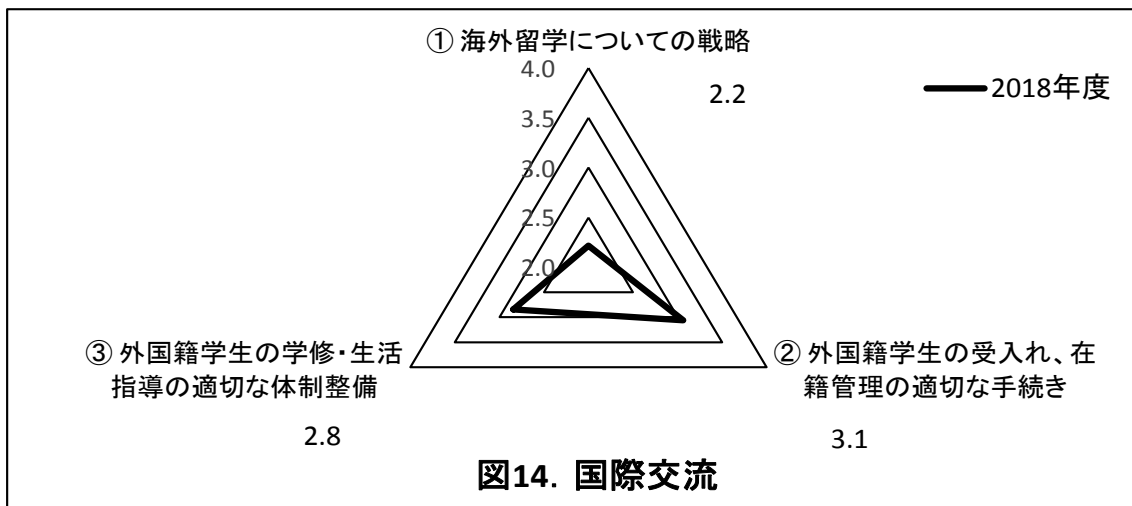
10 社会貢献・地域貢献

全体的に昨年度と同様の高い評価を維持し、各項目 0.1~0.4 ポイントの増加がある。壁画作成等地域へのボランティア活動に参加し、目に見える実績が影響していることが考えられる。また、今年度ボランティア活動に関する要領の見直しを行い、実習施設等のボランティア活動への参加を促していることも要因と考える。教育訓練等の受託に対し、講師の派遣等は実施しているが、地域住民に対する公開講座等が開催できていないため課題として検討していく。



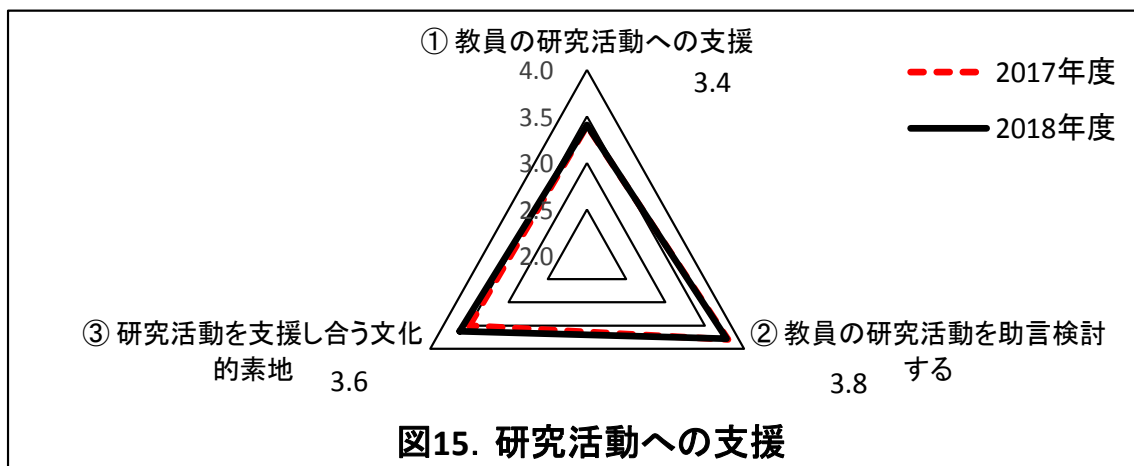
11 国際交流

超高齢社会を迎えて年々労働人口が減少し、経済連携協定（EPA）により、医療現場でも外国人が働く状況がある。国際化が求められていることから、国際交流評価項目を再開した。①海外留学については戦略を持っていない実態が結果に反映されている。過去に日本国籍を持たない学生への国家試験受験に向けた支援や卒後留学のための外国語での証明書発行等の支援実績はあるが、意見欄を見ると、当校で行われている支援体制が周知されていないことがうかがえる。今後は、学生への支援のシステム化が課題となる。



12 研究活動への支援

研究活動に関しては、前年度より0.1ポイントの増加がみられる。今年度より研究活動の支援の一環として研究活動の把握に取り組んだ。



2. 学校関係者評価委員会「明日の厚木看護専門学校を考える会」について

- 1) 実 施 日：2018年9月13日
- 2) 議 題：「学びの場としての学校生活支援について」
- 3) 参 加 者：委員21名、学識経験者、講師、実習施設関係者、地域関係者、卒業生、保護者、学生
- 4) 報 告 内 容：2017年度自己点検・自己評価結果と取り組みについて
「学びの場としての学校生活支援」学生アンケート結果について
会議録は当校ホームページ「学校情報公開」参照
- 5) 今後の計画：2018年度の自己点検・自己評価結果をもとに2019年度9月の学校関係者評価委員会
「明日の厚木看護専門学校を考える会」にて検討する予定。